アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

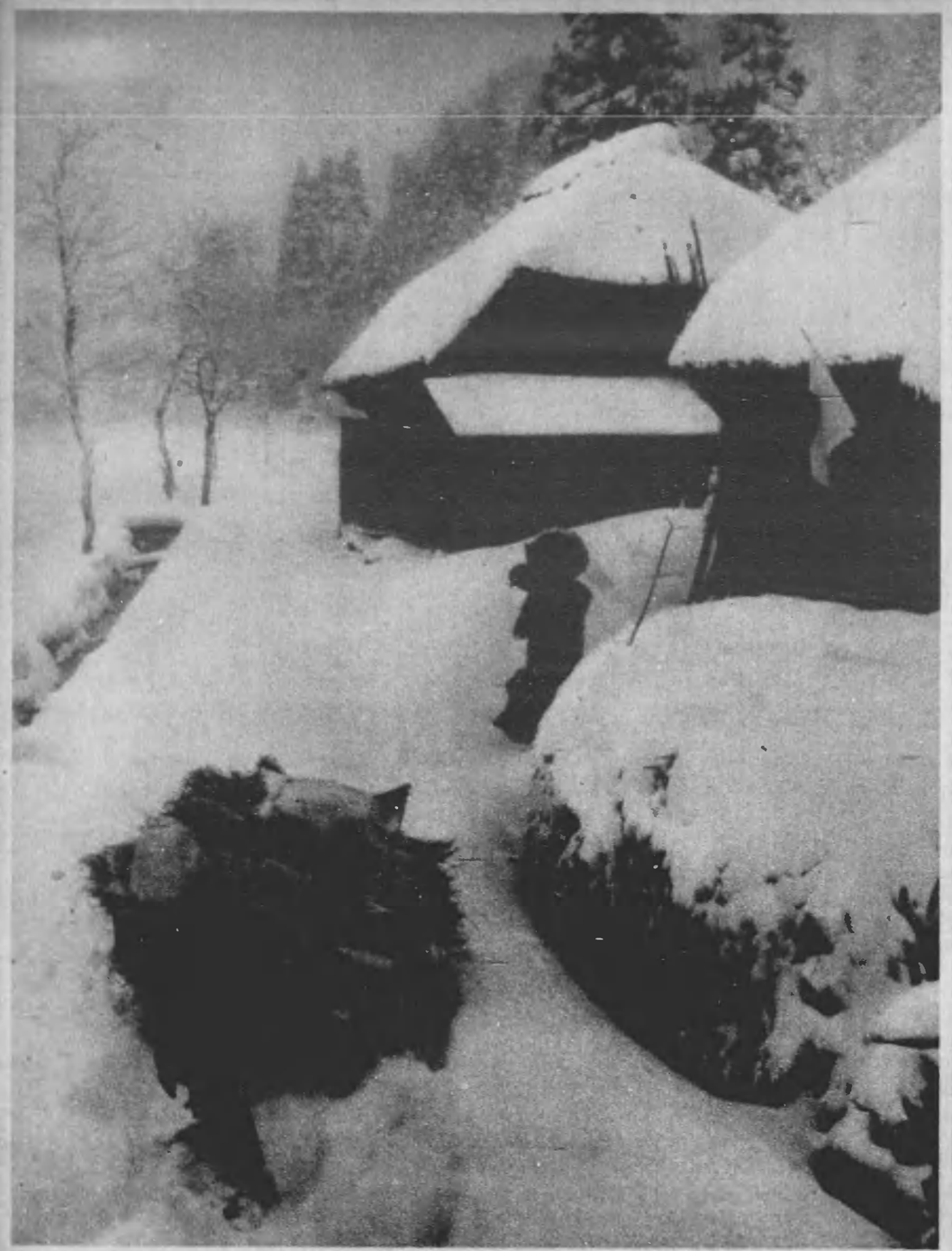
寫眞週報

情報局編輯
一月六日・第二百五十三號・十セン

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

敵アメリカの戰意と戰力は頂上に達してきたぞ
我々はどうだ
今年こそは生やさしい年ではない
坐して戰ひに勝てようか
心も物もなほ一層締めてかゝるのだ　誰が
それは僕なのだ、君なのだ、あなたなのだ

「時の立札」は皆へ讀ませ、その他に轉載、別下さい



題勅
農村新年

豊年の光も芽出たく白雪におほはれた村々、大戰第二年目の新年を迎へて、この年もいよいよ豊かな稔りを得ようと、農士らはいま、祈りにも似た一すぢの心に默々と多忙な多の雪みにうち過してゐるのだ

妙高山麓にて

撮影　渡邊義雄

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

くつて凍も息くは り護の嚴至邊北

氣温標示板が物語るこの酷寒を征服してる。曰くアリューシャン作戰は日ソ戰の序幕なり、わが支那某方面の戰線整理は北方進攻のためなりの宣傳等々、これら日ソ兩國を特神的に對立矣餓化せしめようとする米英の憎むべき策謀を、鐵として粉碎する力こそ、わが北邊を守る將兵の威力なのである

北に南に擧がる戰友の輝々たる戰果に、抑へ難い勇心を敢へて抑へはやる心を實戰以上の猛訓練にふりむけ、いま酷寒の北の最前線に默默として大東亞北邊の護りを固める將兵のあることを銘記しよう

北邊の護りは絶對に安全である人々は安心して興亞の聖業達成に邁進されたい――これは、かつて梅津關東軍司令官閣下が組國に送られた言葉であつた

この言葉の陰には、北門に晝夜をわかたず至嚴の警備を續けるわが關東軍將兵の默々として使命をはたす尊い姿がある。今日北邊は靜穩である。だが敗勢挽回に足掻く米英重慶は、あらゆる擾奇をとらへて日ソ兩國の離間を策してゐ

寫眞提供 陸軍報道部

⇧ 連る戰車の鐵の塊に凭れて、凍傷も忘れて戰車兵の整備は續行した

⇩ 颯風の如く雪原を無限軌道に詩みにじつて、機械化野砲部隊の猛訓練が續けられてゐる

⇩ 寒さやらね最前線の監視哨に交替を待つ間の假睡の夢も凍てる

⇧ 吹きまくる朔風は、肌をさす寒氣も物かは、雪原の彼方、國境線を睨んで最前線の監視哨に立つ少將の眼は微動だもしない

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

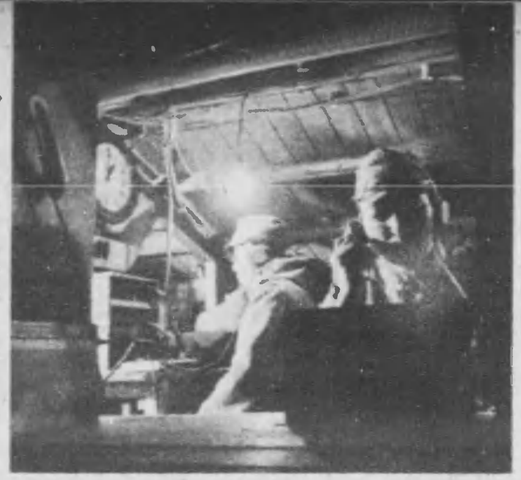
しなはみ休の月正お

隊空防〇〇

⇧ 隊兵が潜望鏡を覗いてゐる

撮影 梅本 忠男

⇧ 敵機来るの報いたれば…たゞ一打ちに仕止めようと高射砲隊員は直ちに陣容の陣を布く



⇧ 正月だからといつて防空の任に當る將兵には休日はない。お正月の匂ひをお飾りにかいで、通信兵は夜となく晝となく刺しい慌夜の動靜に追はれてゐる

蛇に睨まれた蛙といふ言葉があるが、たとへ夜とはいへ、この潜望鏡に捕へられた敵機は正に百年目だ。寒下に下る寒夜にも、監視兵の眼はらん〳〵と輝いてゐる。防空に當る兵隊さんよ有難う ⇩

「敵機は必ず來る」さうだ。防空に對する待つあるを恃むわれ〳〵の覺悟は、はつきりできてゐる。だが、われ〳〵はこの覺悟を十分、ふだんの生活の中心に生かしてゐるだらうか。……警報は何時發令されるか、勿論豫測できない。また、何時自分の住んでゐる町内が、隣組が敵機を相手に

⇧ 敵機は必ず來るだらう。だが、恐れはしないぞ。これに物言はせてたゝき落してやる。彈丸を磨く兵士の自信は固い

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

お正月の休みはなし

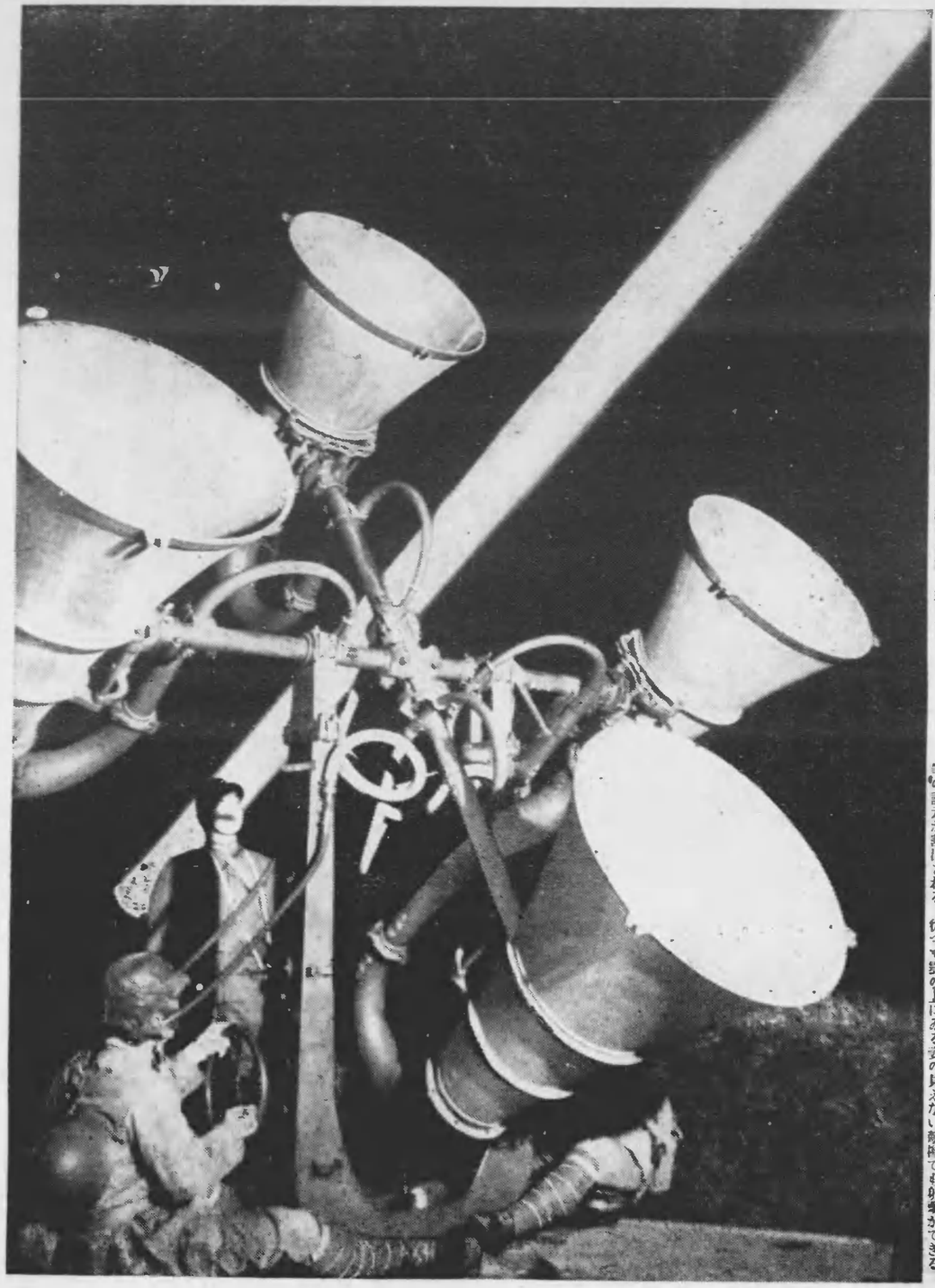
修羅の決戰場となるのかも豫知できないのだ。さうと知りながら、なほ夜おそくまで酒食に耽けり、または年末、年始の休暇に一家揃つて家を空け、遊山になど出かけた、不心得者はなかつたらうか

大東亞戰爭勃發以來、僅かに昨年四月、敵機の來襲をみただけで、われ〳〵は平穩な中に戰爭二年目の春を迎へることができた。巷には和やかな羽子板の音が響き、おほらかな初春の喜びが溢れてゐる。だが、われ〳〵は屠蘇の盃をあげて、新年の祝詞を述べ合ふ前に、この瞬間も、寒風に曝されながら、しつかと望遠鏡を握り多空を見つめてゐる兵隊さんのことを想起しよう。また、靜かに更けゆく夜、火鉢を圍んで新年の團欒に寛ぐ時も、なほ受話機にかじりついて、各方面の情報連絡にあたつてゐる兵隊さんのあることを、決して忘れてはならない

さうだ、敵機は必ず來る。今年こそ、敵機の來襲に備へる戰爭生活を、はつきり確立しようではないか

⇦ 各内には敵機ボーイングB一七の機型が出つてゐる。「我ハ陛下ノ股肱ナリ、聖ノ任務ノ完遂ヲ期ス」食事の前に總員一同逞しい聲を唱和し、來らば必ず滅すべと決意を固める

⇦ 高射砲隊の訓練は、殆んど瞬間的と言つてよいくらゐ短時間に決定してしまふ。それだけ兵士の敵に對する愛情や信頼は大きく、日頃の手入れも本當に念入りだ



⇦ 聽音機が鋭敏な聽覺の網を張つてゐる。咄！爆音……數閃の光芒が闇夜を縫ひ機影を追うて

⇨ 計算班は防空隊の頭腦。聽音機が敵機を捉へると、寸秒の間に位置、高度、速度等の諸元が割出される。從つて銃の上にゐる姿の見えない敵機でも射擊ができる

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

今日こそ天晴れ豆海就鳥

大分國民學校生徒の航空隊一日入營

撮影　大分市　白水定男

⇨今日こそ天晴れ豆海就鳥

⇨今はこれで大空をくる〳〵とび廻つてやる！僕はそのときさう思ひました

⇦飛行服を着せられると僕の氣持はもう宙に浮いてしまひました

⇦戰鬪機の性能を精しく説明していただきました

⇨水兵さんと一緒に有名な海軍ぱん

——兄さん

僕たちのやつとのお願ひがやうやくかなつて、待ちに待つたその日は來ました。毎日、僕たちの學校の上を素晴らしい編隊で飛んでゐた海軍戰鬪機に、僕達はブク〳〵の飛行服を、天晴れ着込んで乘込むと、もう敵機が挑戰してくるやうな氣さへして、ブル〳〵と武者ぶるひがとまりませんでした

大分航空隊の近藤司令のお話にも、制空權がいかに近代戰で重要であるか、また九軍神の後に續く少年航空兵を、日本はまだちんと作らねばならないことなどがありました

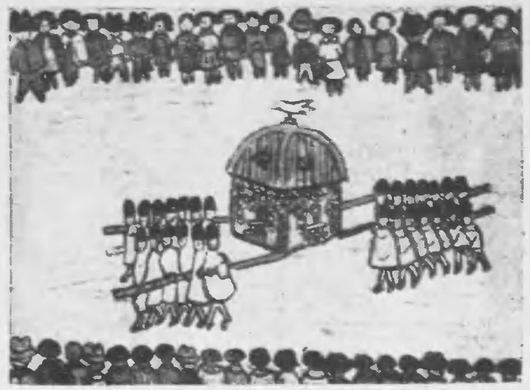
兄さん、僕はこんどの見學で、いよ〳〵海軍少年航空兵を志願する決心を一層かたくしました。それまでもう一息勉强して、もう一息體力を練ることです。大いに頑張りますから、兄さんも一つ應援してください……

⇦すごいなア！海軍の訓練は聞いた口がふさがらぬほどものすごい

アジア歴史資料センター
Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

お正月の休みは慰問袋を送りませう

寒い〳〵北の前線で、暑い〳〵南の前線で、お正月も忘れて戦つてゐて下さる兵隊さん。あなた方がジャングルをくゞつて進撃する時にも、雨と降る敵彈の下を突撃する時も、あなたの腰には慰問袋から出てきたお人形さんがお供をしてゐたと聞きました。戦闘の合間の心のびやかなひと時には、慰問の手紙を何べんも何べんも繰りかへしては讀みかへし、ほろ〳〵になつてしまつても、まだ大切に仕舞つておくとかうかゞひました。おもちやも、お習字もみんな〳〵あなた方を子供のやうによろこばせ、死ぬやうな苦しさも忘れさせて、新らしい力と勇氣を湧き上らせるといつて下さいました。私達は今年もきつとお送りします。今までよりも、もつと〳〵たびたび慰問のお手紙や心をこめた品々を



お祭　高知市第地國民學校二年生　栗井文子

子供常會　名古屋市西區那古野國民學校三年生　藤田文子

掃除番　金澤市浦崎國民學校四年生　山田保

記念撮影　沼津市第五國民學校五年生　高島幸雄

慰問の御手紙有難う

—少國民軍歌—

陸軍少將・兵團長　三浦弘

一

慰問のお手紙有難う
色もくろがね戦車の繪
ゴー〳〵走る逞しさ
さうです　それが日本の
世界に誇る強さです
日の丸仰いで　僕達は
日本の空に言ひました

二

うれしいお手紙有難う
墨も冴えてるお清書だ
ノビ〳〵書いた『神の國』
さうです　それが日本の
世界に誇る心です
日の丸仰いで　僕達は
日本の空に言ひました

三

元氣なお手紙有難う
楽しいお話　運動會
グン〳〵駆けた勇ましさ
さうです　それが日本の
世界に誇る力です
日の丸仰いで　僕達は
日本の空に言ひました

四

やさしいお手紙有難う
可愛い〜紙のお人形
ニコ〳〵笑つて慰める
さうです　それが日本の
世界に誇る守です
日の丸仰いで　僕達は
日本の空に言ひました

（「慰問袋を國民學校に」より）

僕はお清書。ボクノハタンタノエダヨ。私のお手紙だつて、私のお人形だつて、きつと〳〵兵隊さんは喜んで下さるわ

寫影　仙波　巌

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

★南の兵隊さんに便おのらかん★

昭南素描

陸軍上等兵 田村三郎

⇨ 街ののりもの

『昭南市バス』『昭南市電』と横腹に大書した大型バスや、無軌道電車の間を支那人のひく洋車や、シクロ（内地の夏生車）がスル〳〵と抜けて行く。普通のタクシーも通れば、自轉車も走る。昭南市内の交通は建設復興のテンポのやうにめまぐるしい。辻々では、藤の信號板を背負つたいかめしいインド人のお巡りさんが巧みにこれらを整理する。トラックで疾走する半裸の俘虜の青い眼にこの街の風景が何んと映つてゐるだらう

⇧ 昭南郊外

亭々たる椰子の梢に南の微風が囁り、殆んど原色に近い熱帯の草花が咲き匂つてゐる。硝煙收まつて約十ケ月、いま昭南の郊外は、あの激戰を忘れたかのやうに美しく靜かである。明るいアジアの陽光を浴びて歩む現地人の顔には希望と喜びが溢れてゐる。蜂の巣のやうな彈痕に、かつての激戰を物語る敵トーチカがはかない抗戰の悪夢をさらしてゐる。この地に骨を埋めた勇士の墓標が新生昭南をジッと見つめてゐる

⇨ 昭南の劇場

最近ぞく〳〵と内地から慰問團が繰り出して來る。こゝ赤道直下の昭南では、なつかしい東京音頭が突でられ、佐渡おけさが踊られる。時としては『將軍と參謀と兵』なども上映される。内地の香りが兵隊さん達を恍惚とさせてゐる。現地民達は、最初は奇異な眼でステージを見てゐたが、驚歎と畏敬の眼をみはる

愛馬と共に

陸軍上等兵 山田元八

南部ビルマ作戰の一挿話である

加藤政一一等兵（愛知縣東春日井郡水野村中水野南山）がはじめて馬を與へられたのは、部隊がいよいよ行動を開始しようとする朝だつた

彼に與へられた馬は、黑毛に星のある中形の駿々した毛艶のよいがつちりとした馬だつた。義發名簿には岐阜縣海津郡城山村山崎、古川義治としてあつた

森陰の厩では、いま丁度、朝飼がやられてゐた。加藤一等兵の馬、孝作號はときん〳〵鼻をフンフン鳴らし、前足で土を掻き、與へた飼付をぱた〳〵とこぼして仕舞ふのだつた

『どうしたのだらう、可愛氣の無い奴だ』とじつと見つめてゐた。すると、向ふの方で分隊長が『早く馬手入をやれよ。今日は忙がしいぞ』といひながら、一頭々々馬を見に歩いてこられた

加藤一等兵は、何だかといつ勘の強さうな奴だ、俺をなめてゐるのかしらと思ひながら、腹に力を入れて馬を見ながら

『これ、オーラ』とやつてみた。すると孝作は、黑目勝ちな眼差をあげながら、一寸こちらを見た

突然『おいーこの馬は誰の馬だ』と分隊長の聲がすぐ横でした

『はい、加藤のです』

『お前、これは疝痛だぞ』

『はー』とその瞬間、立ちすくむやうな感じがした。疝痛ーあの恐ろしい疝痛かと思つてゐると、分隊長が續けざまに『おいー厩務番、獸醫官殿に連絡をとれよ。どうも變だ』

加藤はぼうつとしてしまつた。數百頭の馬の中で、選りに選つて自分の馬だけが、しかも今朝貰つただけなのに、何んといふ皮肉なことだらうと思つた。中隊は一頭の馬も欲しい今なのだ

白い作業衣を着た市川獸醫官が向ふからこちらへくるのが見える。その後を厩務番が治療具を持つて足早にくる

『昨夜、水も飼付もやつたか』

『はい、やりました』

『今朝は？』

『水だけ三つ飲みました』

『飼付は？』

『食べません』

獸醫官は馬の前に散つてゐる稈を見ながら

『お前、やり過ぎはしないか、飼付を土の上にやつたらう？』

『淫ひます。飼付をやつても前足でこぼしてしまひました』

聽診器は馬の胸から腹、腰へと移されて行く。加藤一等兵は獸醫官の顏と聽診器とを見比べながら、じつと見つめてゐた

やがて獸醫官は聽診器を耳から外しながら『よし、冷水灌腸だ。すぐ準備せよ。それまでうんと腹をこすつてやれ、腰に向つてな』といひながら、向ふの方に、馬を一頭々々見に行かれた

間もなく獸醫官が週番上等兵とこられ、『尾根を繃帶でくゝれよ』と命ぜられた。恐る〳〵尾の先を握つたとたんに、後趾をぱたんとキつた。加藤一等兵は思はず手を放して飛びさがつた。そしてわれながら不味いことをしたと思つた

獸醫官が笑ひながら『年取るとお身大切かな』と無造作に馬の尾根に繃帶を巻かれた

× ×

げつそりと痩せ衰へた馬が、首をうなだれて重い荷を曳いてゐる姿は、一入戰場の秋に色添へて、淋しい姿だつた

秋とはいへ、日中は祖國の眞夏の暑さなどとは比べられない酷暑だつた。加藤一等兵の屬する第十一班は今日までに三頭も馬を斃したが、班の馬は皆優秀馬揃ひだつたので、他の馬の二倍近い重荷を曳いてゐた。日中は暑いのでと、夜中の二時頃出發し、目ざす目的地には拂曉に着けると思つたが、坂また坂のこの難路、到底われ〳〵の豫想通りの行軍ができなかつた。中隊長も小隊長も、皆んな徒歩で、前の坂に馬が倒れた。後の坂で轅木が折れた。『オーラ、オーラ』と國境の山路に谺する兵隊の聲に和して、名も知れぬ猛獸猛鳥の繁殖する深山の谷の悽愴な雰氣

先の馬が上の坂の頂上にかゝつて行く頃、頃はよしと分隊長が命ずるのであつた

加藤は胸に念じ、どうか無事に通過してくれ、止まらずに登つて果れ、と祈らざるを得なかつた。

『オーラ、オーラ。頑張れ、それ、それ』

滴なす汗、波打つ鼓動。この坂で止めたら最後、左は千仞の谷、右は礫の累石、もし馬が後に下れば、後に続く幾十の人馬車輛は千仞の谷間に落ちねばならない。危さを感じて『おゝ止めるな、止めるな。作、頑張れ、頑張つて呉れ。今少しだ、苦しからうが輔ね、今一息』と加藤は念じつゝ、

筆者は偶然にも或るマライ人の結婚式に列する機會を得た。マライ人といつても或る劇壇の俳優と謂り子のそれで、實はインドネシアである。招ぜられるゝまゝに二階の式場に臨んだ

およそ四、五十名の人々がみんなあぐらをかいたり、或ひは勝手な姿勢をして坐つてゐる。いづれもマライ特有の背廣の下に花模樣のサロンを巻いた晴れの盛裝をして

圍められて式場の中央に。その後には今日の新郎新婦の職壇がもつて、すぐその傍に坐るや、滿堂の視線が異樣の中に、それでも『やあ、いらつしやい』と言ふやうな人懐つこい眼をみはる。日本の軍人が來るとは意外だといふ顏つき。やがて式が始まつた。私のすぐ傍の僧侶が一冊の本を取り出すと、新郎新婦の親達が何やら署名し、續いて新郎もはにかむやうな顏をしてサインを濟ます。これが戸籍記帳のことだと聞かされた。後日、軍政部の戸籍係に廻るといふことである

新婦は下をむいたまゝ靜かな吁嗚を敷へてゐるらしい

やがてとんでもない大きな皿に盛つた料理や、飲々の皿にたつぷりした料理があらはれた。果は牛の脚かと思はれる恰好をした骨のへの字に出ぱつた肉フライ等が、筆者の前に現はれた時には『いさゝか面喰つた

『マスター、どうぞ』と言はれて

軈馬孝作は連日の疲れも冬からうに、加藤の心が通じてか、鬣を振りかざし、前趾をがつちり踏みしめ、要處々々の補助兵の援助に力を倍して、阿修羅の如く大坂の上に、砂地の坂を突き進む姿に、力

馬を勵ましして坂を登り切つたのである

× ×

靜かに暮れる戰場の宵に、兵馬は宿營の森に前後を忘れて、のめり寢に寢て仕舞ふ。夜半の折から、誰か厩の横でがさごそとしてゐる者がある。厩當番の森信義上等兵（名古屋市昭和區廣路町）が闇に透して見ると、加藤一等兵が寢る目も惜しみ何か切りきざむ樣子に、そばに寄つて見ると、道で拾つた麻切れを小刀で臨目もふらずに明日の飼付にと切つてゐるところだつた

『おい加藤。お前、馬も大事だらうが、少しは自分の身にも注意をしろよ』

と愛をかければ

『おゝ森さんか。作の奴、どうも昨日の坂がこたへたので、げつそり痩せて、今日は少し鞍傷を起してしまつた

『それはさうさ。丈夫な馬だつて、これには參るよ。たまるものか。身輕な俺達でさへ頑を出すのに、百貫餘りの重い荷を曳き、手に二、三杯の粥と一日、二、三滴の水だ。それにどうだ、この暑さは。まるで殺人的だな』

と語りながら、そこに坐つた

一リットルの水。これは命にもかへ難いわれ〳〵一日の水量である水は無い。泥水でもよい、飲みたい。一滴でもよい、馬にやりたい。祈りつゝ行く追及の山路に、飼付の粥藥を潤ぼすのに、惜し氣も無

く水筒の水を馬に與へる加藤一等兵だつた。又どんなに疲れてゐる時でも、青草を見れば、如何なる道も遠しとせず、愛馬にやるのも健だつた

× ×

眼りなく晴れた大空に、蜿蜒長蛇の如き中隊の行進は意の如く進捗せず、輜をかみしめ熱砂の惡路

『第十一班、加藤の馬が倒れた』

暫くして又

『獣醫官、後ろへ！』の連傳が送られた。芳賀分隊長は

『第十一班孝作、加藤一等兵の馬が倒れました。鞍傷も大分ひどくもよつと立ちません』

と小隊長に報告すれば、小隊長はすかさず『駄目か』と聞き返された

『只今獣醫官殿に見ていたときましたが、駄目らしいです』

『さうか、よし』と小隊長は愛馬孝山に一鞭入れて、砂地を走つて行かれた

『おい、作、苦しいか。元氣を出せよ。可哀さうになあ、苦勞させて。もうすぐだ』

『作、小隊長殿だ。分るか、これ、作。頭を上げろ。何故お前は立てないのだ』と馬の首にすがつて呼ぶ加藤一等兵の眞心に、孝作は充血しきつた眼を見開き、じつと加藤を見つめてゐる。その眼差しは、母に抱かれる幼兒の如く安らかなものだつた

加藤が鞍傷の手當に自分のシャツを切つて使つたことも、大事な糧下を切つて馬に履かせたことも知り、日頃の彼を知るだけに、小隊長の胸に、何か熱いものがこみ上げてくるのだつた

『小隊長殿、自分を殘して下さい』

部隊は、夜を日につぐ行軍を續けねばならなかつたが、愛馬と共に死んでもよいと決意してゐる兵士の心情を汲み、小隊長も許さざるを得なかつた

『それでは氣を付けてな。道は一本道だ。宿營豫定地は、一里先の森だ。着いたら誰か迎へによこす。それでは氣を付けろよ』

長聲一笛、聞き馴れた小隊長の前進の合圖がはつきりと聞えて來た。今まで死んだやうに寢てゐた孝作は、むつくり首をもたげて、膝臘たる意識の中にも、前進記號に、歩まんものとあせり出す健氣さに加藤はその首を抱いて泣いた

『作、靜かにしろ。夕方、涼しくなつたら一緒に行くのだ』

立たんとはすれど立ち得ない己れに瞰念したものか、又ぐつたりと眠る如く倒れてしまつた

中天高く上弦の月が輝く頃、戰友各務鏡次二等兵（岐阜縣加茂郡山上村）と、杉山千代吉二等兵（岐阜市益屋町）、兼子保明獣醫務伍長（愛知縣愛知郡農明村）の三名が迎へに來てくれた

四人が力を合せて立たせると、おぼつかない足取りながら馬はやうやく立つた。杉山と各務が馬の尻を押し、加藤が前を曳き、兼子伍長が道案内で、一歩行つては二歩止り、三歩行つては五歩止りして歩む姿は、月光斜めに射し、露を含んだ戰場の小草の上に、影繪を見るやうな風情がするのだつた

部隊に着いたのは五時頃だつた。その夜、病馬孝作號の一進一退する病勢に一睡もせず看る彼は、さながら病める愛兒を慈しむ慈母の如く、一睡もせず介抱し續けた。しかしその甲斐もなく刻々に弱り行く軍馬孝作號は、黎明と共に加藤一等兵の力強い腕に抱かれつゝ、南部ビルマ作戰の礎として、安らかに眠るが如く逝つた

編集獣

征かんかないかに山路のけはしとて皇御國のつはもの我は

天地の神聞し召せ今日よりはたゞ大君のしこのみたてぞ

俳句

征く汽車の果や連る雲の峯　ビルマ派遣軍陸軍中尉　萩森一歩

スコールや珠ひるがへす鐵かぶと　ビルマ派遣軍陸軍兵長　林弐定

月冴えて歩哨の戰友の影淋れ　ビルマ派遣軍陸軍軍曹　佐藤梅一

水平線煙一筋の秋日影　ビルマ派遣軍陸軍軍曹　小南上等兵

黑き兒と兵も撮るなり椰子樹陰

川柳

洗濯は母に負けない五歳月　ビルマ派遣軍陸軍兵長　三代木若松

隊長の髭面椰子の實をすゝる　ビルマ派遣軍陸軍中尉　萩森一歩

愛兒の意見讀む勇士の眼笑つてゐる　ビルマ派遣軍陸軍兵長　秋山隆義

兒の便り土産に首をたのまれる　ビルマ派遣軍陸軍兵長　秋山隆義

色封筒誰と問はれてとぼけ面　ビルマ派遣軍陸軍軍曹　佐藤梅一

胸つまる母の文字や初だより　ビルマ派遣軍陸軍軍曹　森谷米光

新春の行事兵にも水をかけ

大東亞戰爭日誌

—十二月—

八日　◉ニューギニア島方面帝國海軍航空部隊は十一月二十四日以來本日までに同島東部ブナ附近において敵機四十四機を撃墜破し、敵哨戒艇二隻、輸送船二隻を撃沈、この間我が方の自爆または未歸還九機

十五日　◉ビルマ方面陸軍航空部隊は、十二月五日および十日英領インド、チッタゴン港を攻撃し、英空軍、船舶および軍事施設に大なる損害を與へたり、本日までに判明せる主なる戰果

一、敵に與へたる損害

飛行機撃墜十機（うち不確實三）（ロ）船舶撃沈七隻、大破十隻、炎上四乃至五隻（八）陸上施設、停車場および埠頭倉庫に直撃弾八、列車炎上一

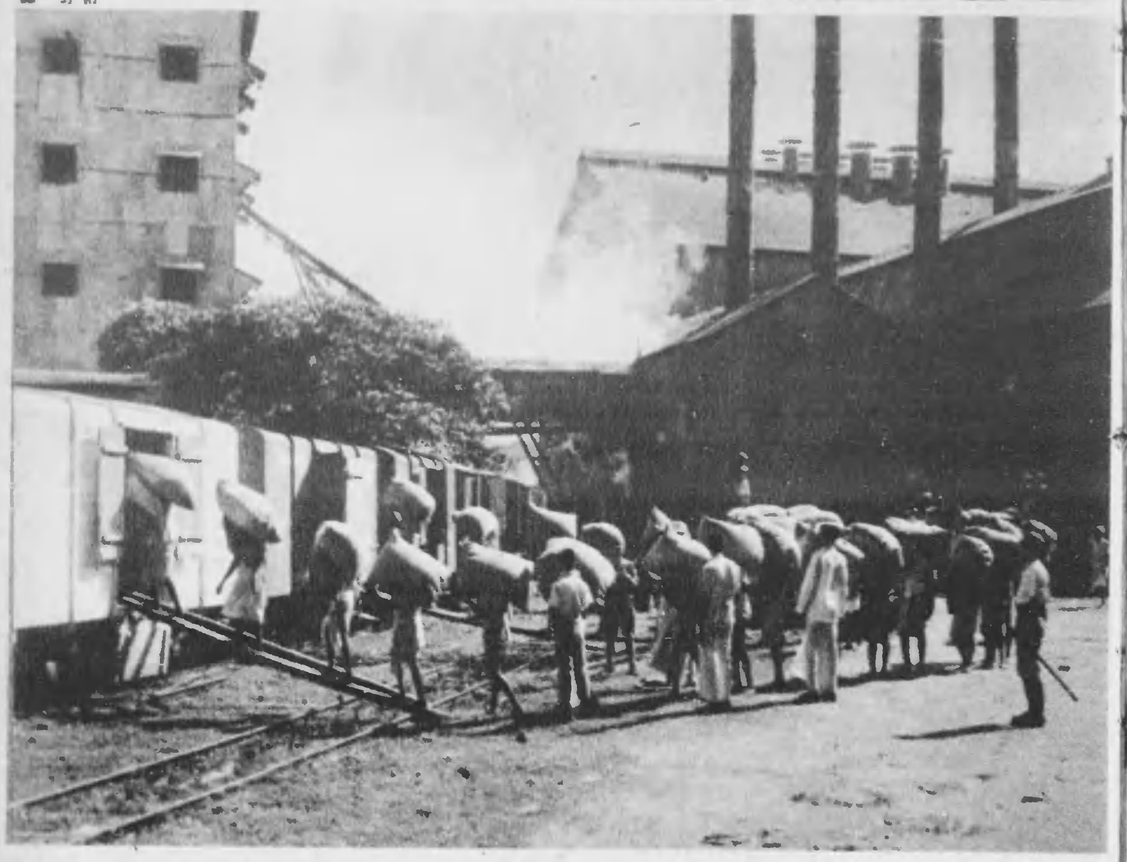
二、我が方の損害、未だ歸還せざる飛行機二機

十六日　◉ビルマ方面陸軍航空部隊は十二月十五、十六日チッタゴンおよびフェンニイ兩飛行場を攻撃し、敵機二十九機を撃墜破せるほか兩飛行場およびチッタゴン埠頭の主要施設を爆砕し、これに甚大なる損害を與へたり

（一）敵機に與へたる損害、撃墜十九機（うち不確實四）、炎上四機、撃破六機（二）我が方の損害、自爆せるもの一機、未だ歸還せざるもの四機

◉例の通りおじさもどうやら恰好のついた被服工場の婦さんたち

◉倉庫から貨車へ、そしてビルマ全土へ、お米の出荷は順調次——精米工場



煙草も饅頭も自給自足で

ビルマの貨物廠

文　陸軍恤兵部嘱託　高田一夫

撮影　川村貞次郎　沼田貞次郎　野平清

『銃後も大へんだと思ひますから、國内の皆さんには出來るだけお世話をかけたくないです』とは、未踏の地理的困難を征服し體質に馴れぬ熱帶の氣候と闘ひ、眼に見えぬ疫病細菌の強敵を目して、たゝかひ抜いて來た一勇士の偽りなき述懐である。これはまた、戰場にある將兵の誰もが抱いてゐる親身な念願であり、強烈なる確信でもあるのだ

現地軍のお奈所を承る貨物廠でも、銃後の負擔を少しでも輕減しようとの親心を碎き、現地での自給自足を建前として種々な計畫が進められてゐる。貨物廠といへば、何から何まで國内製品に依存し、これを適當に整備加工して補給分配する一極の配給所の如きものであらうなどと早合點したら大間違ひ、第一線將兵の眞摯な心情を傷つけることになる

適當な原料や資材の發見が至難な上に、人的資源と技術の補足が十分でない四圍の悪まれざる條件の中から、衣食住に關する萬般の軍需品を造り出さねばならぬ苦心は並大抵ではない。とり分け、氣候風土の異る土地で兵隊さんの一番歓迎する食物、いはゞ日本人的好みに應ずる食物とするには、相當な技術を要するのである。ましてや、現地軍の自活の道を打ち立てるまでに事を運ぶには、想像を超えた苦心と努力が拂はれなければならぬ

貨物廠の先遣隊は、戰鬪部隊の入城に前後してランゲーンに進駐し、直ちに英國人とともにユダヤ人の經營になる敵産の施設、工場を各所において接收して、仕事の段取りをつけた。戰場では食べることが何より肝腎だとて、最初に精米所が開設された。印度支那山脈を乘り越え、何百里もの長い道程をたゝかひつゞけてきた勇士の軍靴は無殘に破れ、被服はボロ〳〵に綻びちぎれてゐる。何を措いても、軍靴の修繕工場と被服の縫工場とが、早急に必要となつたわけである。いざ仕事となつても職工が少い

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

煙草も饅頭も自給自足で

⇨ インド人苦力がチータ付と取くんで堅めた　電材工場

⇨ ぼろ〳〵になつた軍靴も物々しいインド人の手でどし〳〵修繕される——製靴工場

⇨ 病服の被衣が待つてゐるだけ。氷がどん〳〵積み出される　製氷工場

これでは何日か〳〵つても、全軍の要求を充すことが出來ない。焦躁を感じながら、高野大尉は意を決して、戰場で職工の狩り出しに駆けずり廻つた。住民の避難してゐるパゴダ（佛塔）や公園に出かけては、宣撫演説を試みて、手に職のあるものは進んで申し出で、皇軍に協力すべきことを說いた。一週間過ぎ、半ケ月も經つて、やうやく職工も揃つてきた。鍛冶屋の鍛冶工が、どしどしやつてくるやうになつたのは、それから一ケ月も後のことであつた。かうしてビルマの住民の協力によつて仕事が圓滑となり、次ぎ〳〵と事業の領域が擴大されてゆくのであつた。

今では、貨物廠は、ビルマの各地に十數箇所の出張所と連絡所を設け、大小各地に亘つて數十の工場を擁する大世帶となつてゐる。精米所を筆頭に、製材、木工、被服、皮革などの大工場があり、味噌、醬油、酒の醸造から鰹節、菓子の嗜好品の製造も、石鹸、ローソク、メリヤス、染色の各工場が經營されてゐる。この外に家畜、家禽の飼育、野菜の試作をやる農園の經營と豊富な近海漁業は、食糧確保の重要なる部門を占めてゐる。

次ぎに各工場について少しく說明してみよう。ビルマのなめし革は、殆んど植物なめしによつて、鞣物なめしではなかつた。工場も各地に散在してゐるが、手工職の域を脫してゐなかつた。貨物廠では、鞣物なめしとし、皮革製品に馬力をかけてゐるが、早急には機械化生産の設備が出來ないので、現地の需要に應ずるだけといふ狀態である。

河川の碾磨場や、鐵道沿線の米の集散地には、內地で見られぬ大規模な精米工場が設備されてゐる。粗で買ひ集めて、精米所で直ちに精米して輸出するわけであつた。ランゲーンにある貨物廠の精米所は、英國人の經營してゐたもので、粗殼を燃料とする蒸氣機關の七百馬力の動力によつて、一

⇨ 兵隊さんの手はじきで、今日ではインド人がおいしいお味噌をこしらへてゐる——味噌工場

今日の酒保にはドラ焼きがまはるぞ、インド青年の子さばきも板についた——製菓工場

⇨ 破れた被衣もやさしく繕はれて故郷の手を想ふ——被服工場

⇨ 兵隊さんを容ばせる莨葉は婦人なビルマ娘の手で煙草製造工場

昼夜に二百トンの精米能力を發揮してゐるこゝでは毎月、四、五百人のインド人苦力がせつせと働いてゐる。こゝの苦力は、今まで見てきたどこで働いてゐる苦力よりも力持だと思つた。普通、インド人の苦力は三人かゝつても日本の兵隊さん一人に及ばぬほどで、ことにビルマ人に至つては、力仕事は出來ない位だが、こゝのインド人の苦力は、百キロの米袋を一人で擔いでゐる。味噌は、現地產のカラベ（青大豆）モチゴチ（白大豆）いんげんを主としてつくられ、極かうじだけ內地から運び、現地で增養してゐる。酒も米から十日間餘りでつくり出されるが、試驗の域を脫してゐる。いづれもかうじをこしらへるのが一番大切な仕事であるが、現地では溫度も異るし、容易な業ではないといふことだ。醬油は、現地產のストックを煮染して、これを素材として、日本的に味を變へてつくり直して配給してゐる。

製菓工場は、ユダヤ人の經營になつてゐた大きな街中の工場を巧みに利用して、大量製造を進めてゐる。こゝではビルマ人、インド人の男女工が二百名餘働いてゐる。ビルマの可愛い娘さんが、饅頭のアンコの包み方を教へられ、三ケ月も經た昨今では一人前の職人となつてゐる。一箇食べると腹一パイになるドラ焼から、滋養の出るとても甘い果饅頭、カステラ、栗おこしの外に兵隊さんの加給品にするビスケット、食パンなどがどし〳〵製造されてゐる。ビルマでは、煙草の栽增は進められるが、煙草の製造工場は僅々たるもので、恐らく外國に製造工場が設けてあつたのであらう。貨物廠の設備だけでは、全軍の需要には到底應じきれない。被服工場では、數百名のビルマの女性が甲斐々々しく働いてゐる。花好きな彼女達は頭に花を飾り、ミシンの絲卷に花を挿してゐる。廣い工場一パイにミシン機械を並べてゐる光景は壯觀であつた

アジア歴史センター
Japan Center for Asian Historical Records

安南の遊びいろく

皆さんのとそつくりでせう

文　松崎陸軍報道班員
撮影　深澤海軍報道班員

安南の地に今なほ殘る「日本橋」の地名や、日本人が作つたと傳へられる「來遠橋」によつて說くまでもなく、佛領印度支那、安南と、日本のつながりはあまりにも深く、あまりにもこまやかである。そして、この地の民情、風俗のどれにふれても、我々は、それがあまりにも日本に近い故に、故郷を、日本を感じて、強く、心をゆさぶられるのだ。江戸時代の職業づくしの繪を書いた安南のかるた、それで夜を樂しむ安南の人々もさることながら、石けり、繩とびに打興じる安南の子供達を見ると、誰でもが『我々が子供のときやつたのと同じぢやないか』と立止まつて見とれるのである。それほど、安南の子供達の遊びは、日本の子供達の遊びによく似てゐる。――この安南の子供達の遊びを、いくつかこゝに紹介しよう

石けり＝『チョイ・ニャー・コー』といふ。女の子供達が、地面に小石で線を引き、全部で七つの四角を書き、その一番向ふに二重丸の『上り』をつくつて、日本の石けりと同じやうに、めい〳〵の石を『上り』に進めて行く

石けり

球ところがし＝『タイ・グーン』といふ。これは、他の遊びと違つて、學校の校庭でなければ見られない。なぜなら、セメントで作つた大きな球は、學校にしかないからだ。地面に大きな二重丸を書

カード遊び＝『チョイ・ター・バオ』といふ。大人から慰草の空き箱をもらつて來て、カード型に切り、これを何枚も重ねて、お緘の中に置く。お緘は、地面に小石で書いた四角の線の中である。お緘の中のカードには、遠くからみんなで石をぶつけろ。お緘から、滑り山カードを出したものが勝ちで、これは男の子達の遊びである。よく見てゐると、日本のめんこ遊びそつくりだ

ムネ球を一つ置き、みんなは遠く離れて大きなセメントの球をころがす。二重丸の眞ン中のラムネ球の一番近くに行つた者が勝ちで、同じ位のものがあると、先生は、秤で正しく計つて勝ち負けをきめてやる

しがろこ球

繩遊び＝『グーン・トーン』といふ。男の子も、女の子も、多勢で遊ぶ遊びで、二尺位の棒と、その半分位の棒をもつて來てまづ地面に細い溝を作ろ。溝が出來たら、頭の方が三、四寸出る位にして、短い棒を溝に入れ、その外に出てゐるところを、長▲

棒遊び

▲い方の棒で叩いて棒を遠くに離れてゐる相手は飛んで來る棒を受け止め、これを投げ返す。打ち手の足もと、つまり溝の前に置いた長い棒に、投げ返した短い棒がうまく當ればよいが、當らないと、打ち手は、短い棒を上に投げあげて、落ちて來るところを長い棒で打ち飛ばす。打たれた短い棒が、うまくみんなの頭の上を飛び越えたら、打ち手は、もう一度最初から棒を打つこ×とが出來る。×、男の子がこの遊びをやるときには、頭の上に投げてから打つと、短い棒を頭や肩にのせて置いて打つたり、片足をくゞらして上に投げ上げて打つたり打つのをむづかしくするのである

こま遊び＝『グーン・ユー』といふ。男の子達の遊びで、棒の先につけた紐で、小さいこまをたゝきながら紐はすのは、日本のやり方と同じである。このこまは、子供達が有り合はせの木で、めい〳〵に作ろ。だから、下手な子が作ろと、こまはよく碾はらない

傾、かうした遊びをするとき、安南の子供達は、みんな跣足になつて仕舞ふのが面白い。靴をはいてゐる者も、安南下駄をはいてゐる子も、みんな跣足になつて仕舞ふ。彼等は、跣足の方が遊びいゝらしいのだ

こま遊び

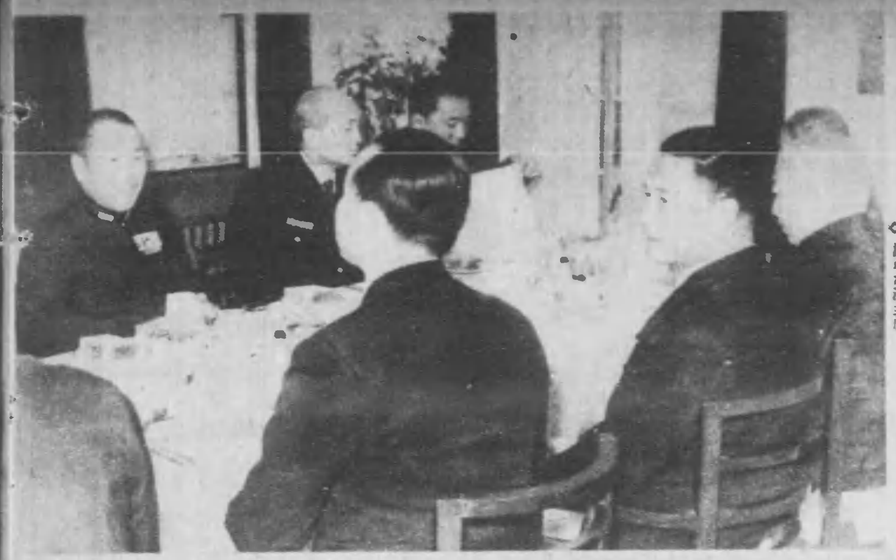
繩飛び

カード遊び

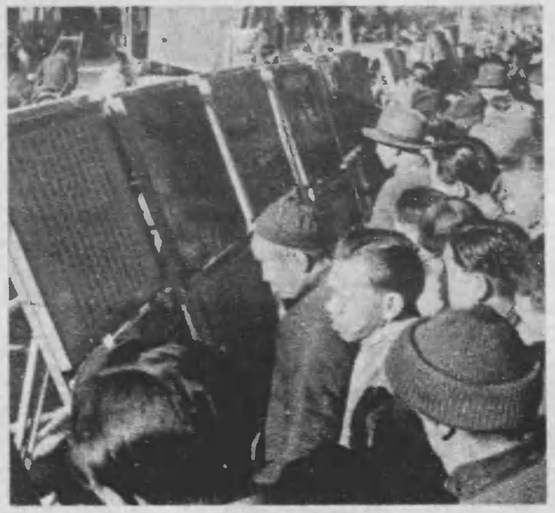
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

日華一丸の誓ひ愈々固く

大東亞戰爭一周年を迎へた新中國



⇦ 十日、海軍公館に吉田支那方面艦隊司令長官を訪ねた汪主席



⇨ 大東亞戰爭と新中國との關係を簡明に解いた街頭移動展

市中を行進するわが地軍部隊と中國民間團體の路上交歡 ⇩

大戰勃發と同時に新中國は直ちに聲明を發し、友邦日本との共甘同苦を決定したが、開戰一周年を迎へて首都南京では、一年前のあの日を想起し、大戰完遂の協力を一段と強化して、中華復興と保衛東亞の使命を達成せんとする國府側の諸行事が展開され、日華一丸の誓もいよ〳〵固く、戰爭第二年へ發足した

撮影　支那派遣軍報道部

★表紙

多勢軍などといふ言葉は日本にはない。北滿の展開線に開墾をついて今日も墾實守備隊の武裝部隊が繰げられてゐる。然か地平を目ざして、大雪原をゆく雪橇部隊、時至れば雪煙を捲いて白魔の如く襲ひかゝるのだ

撮影　關東軍報道部

復習帖

本誌からあなたは何を讀んでゐるか？

1 雲の上にねて素の見えない敵機は地上から撃つことができない？ ……（19頁）

2 貨物廠とは現地軍で內地から來た物資を補給分配する配給所のやうなものださうですね ……間違ひです。それは大ちがひです。……（17頁）

3 ビルマで兵隊さん達がお饅頭や栗饅頭をたべてゐました。內地からこんなものまで送つてゐるのでせうか？ ……（10頁）

4 軍馬を襲す恐ろしい疫病といふ病氣はどうしておこるのでせう？ 飼付を多くやり過ぎるから？ 土の上に飼付をやるから？ 全然飼付をやらないから？ 魚を食はせるから？ ……（11頁）

5 ビルマとかわが南方占領地の熱帶地方には病氣などしても冷やす氷があるでせうか？ ……（18頁）

6 大戰勃發と同時に新中國は日本との同甘共苦を決定し、○東亞、中華○○の、大目標を聲明した ……（22頁）

7 ビルマの現地人たちには味噌を造ることができませうか？ ……（10頁）

8 パゴダとは ビルマ、タイなどにおける佛塔？ ビルマ產のタバコ？ 宗教的な祈り？ ……（18頁）

9 我が北邊の護りに對して蘇米英はいろ〳〵の惡宣傳をしてゐますが、それは何の目的ですか？ ……（4頁）

10 ダーン・トーンとは ……安南の子の伸遊び？ 飼敵の背例となるために行ふ苦行の一種？ タガログ語の大砲の音の形容？ ……（21頁）

一問十點としてあなたは何點でしたか？

海軍關係若干の複寫複製は海軍省承認濟（第五二四二號）

大東亞戰爭漫畫日誌

石川　進介

ルガン沖夜襲で阿大戰艦撃滅

北阿の英軍ド拿船隊を撃沈

米軍チャタゴンの戰艦船船撃沈

一周年記念日　一位の快勝感慨

米英蘭聯合艦隊の米艦船撃沈後

お正月献納

決戰羽根つき　杉　柾夫

鬼たちもシャベルが自由に揃れるやうに

⇩ ヘイタイサンヘオ玉年オ　南　義郎

ヨロコブオ正月ノアサヤケタ　ヨロコブオ正月ノヨルヤケタ

青年と大地　小泉　榮郎

一歩は、歩は一だがシャレたハイキングではない。靴をぬいでガッチリと大地の書を讀んで歩くのだ。會社の休みの間、毎日晴れにきますよ。

⇦

腹を伸ばした お正月　榎木　映

「腹を伸ばしたこの正月から不用だ、どうもこいつがあると行動が不自由になる。見なさい、敵地の鳥子が笑つてゐるよ、鶴さんや！」

⇦ 正月も平日　秋　玲二

「ドッチラケナ。作業服だよ。お正月がつて遊ぶ休みぢやないよッ。」

女子挺身員　森　精佳 ⇩

船の內から鏡面を覗いて「今日は書初御守の御主人がちの顏を直します。有へ、ならハッ！」

寫眞週報 昭和十七年一月十二日 第[illegible]號 [illegible]郵便物認可 昭和十六年一月二日發行 毎週一回水曜日發行 定價一部五十錢

お年玉で だんがんきって を買ひませう

第8回賣出　1月1日⇨15日
抽籤日　1月20日
1枚　2圓
割增金　1等1000圓 以下多數
當籤割合　11枚ニ付1枚

賣切れぬうちに早ハ郵便局へ

寫眞週報（禁轉載）
昭和十七年一月十二日 六日 印刷發行
編輯兼印刷者 情報局 東京市麹町區永田町一ノ一
發行者 內閣印刷局 東京市麹町區大手町

一部十錢（送料一錢）
（外國郵送に依る地域は送料共一部十九錢）
▲定期配送御希望の方は一部十錢（送料一錢）の割合を以て前金を送へ御申込み下さい
▲特大號の場合は其の都度郵拂込金より差額を申受けます

申込所
全國各地官報販賣所
書店・驛賣店
新聞販賣店
寫眞材料店

前線慰問に本誌を
お讀みになつたら本誌を前線慰問に送りませう。送料は內地と同樣で帶封あるひは開封にして第三種と明記すれば、一部一錢です

內閣印刷局印刷發行

（判型縮寫：A4枠規定國はさき大の書本）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/